

民科・法律部会で労働者協同組合を論議

菅野 正 純 (協同総合研究所・専務理事)

3月29～31日に「民主主義科学者協会・法律部会」の「春合宿研究会」が、福島県土湯温泉で開かれました。この合宿の3日目の「労働法・社会保障法分科会」で労働者協同組合がとりあげられるということをうかがい、法律には門外漢ですが、飛び込みで参加させていただきました。

この分科会は、宮城教育大学の伊藤博義先生を中心に、「労働者協同組合の内容と最近の論議の状況について認識を深める」とともに、「企業別組合が支配的な日本の労働組合運動が停滞におちいている現在、この停滞を飛躍に転換させるための主体として、新しい労働運動の方向として積極的に評価できるのか等について率直な論議」を行なうために開かれたものです。

当日は、山形大学の菊間満先生が「林業の現状と労働者協同組合の必要性」について報告。つづいて菅野が労働者協同組合の歴史と現状について説明し、法制化にむけてのご協力をお願いしました。先生方からは、熱心な質問と意見が出され、今後、いろいろと力ぞえをいただけることになり

ました。

雇用不安がふたたび大きく高まっている中で、労働者協同組合を法制的にみとめさせることが、ますます重要になっています。それは、労働者協同組合がもうけ主義の企業とちがって、①地域づくり・仕事おこしによって雇用創出、不安定就労改革をすすめ、②とりわけ高齢者・障害者の就労を拡大し、③公共の業務を「自主・民主・公開」の原則にたって行ない、④剰余金の一部を積み立てて、引退以降の生活も支え合う、独自の事業体であり運動体であるからです。

その意味で、労働運動に密接なつながりのある、労働法の先生方に労働者協同組合についての理解を深めていただいたことは、大きな収穫であったと思います。なお、伊藤博義先生は、最近『若者たちと法を学ぶ』という本を有斐閣から出されました。働く人びとや若者たちに対する先生のあたたかい思いが伝わってくる本ですのでおすすめします。

受贈図書文献

1993年1月より4月

単行本

- 山井敏章『ドイツ初期労働者運動史研究—協同組合の時代』(未來社、93年3月)
- 佐藤日出夫追悼集刊行委員会編『虹のロマンに生きて—追悼—佐藤日出夫』(山形県生協連、生協共立社、92年12月)
- 遠藤孝/角瀬保雄両先生還暦記念出版刊行委員会編著『現代会計・課題と展望』(ミネルヴァ書房、93年4月)
- 河合克義編著『住民主体の地域保健福祉計画』(あけび書房、93年3月)

- Chushichi Tsuzuki ed., Robert Owen and the World of Cooperation, Hokusensha, 1992.

文献・資料

- 京都生協調査資料室「京都の暮らしと生協・資料室月報—11・23京都シンポジウム特集号」No44 合併号 (93年2月)
- 京都高齢者事業団「働くよろこび—仕事をつくり、人をつくり、街をつくる—京都高齢者事業団20周年誌」(92年11月)
- 全日本造船機械労働組合東芝アンパックス分会「東芝アンパックス闘争総括集—みんなを信じ